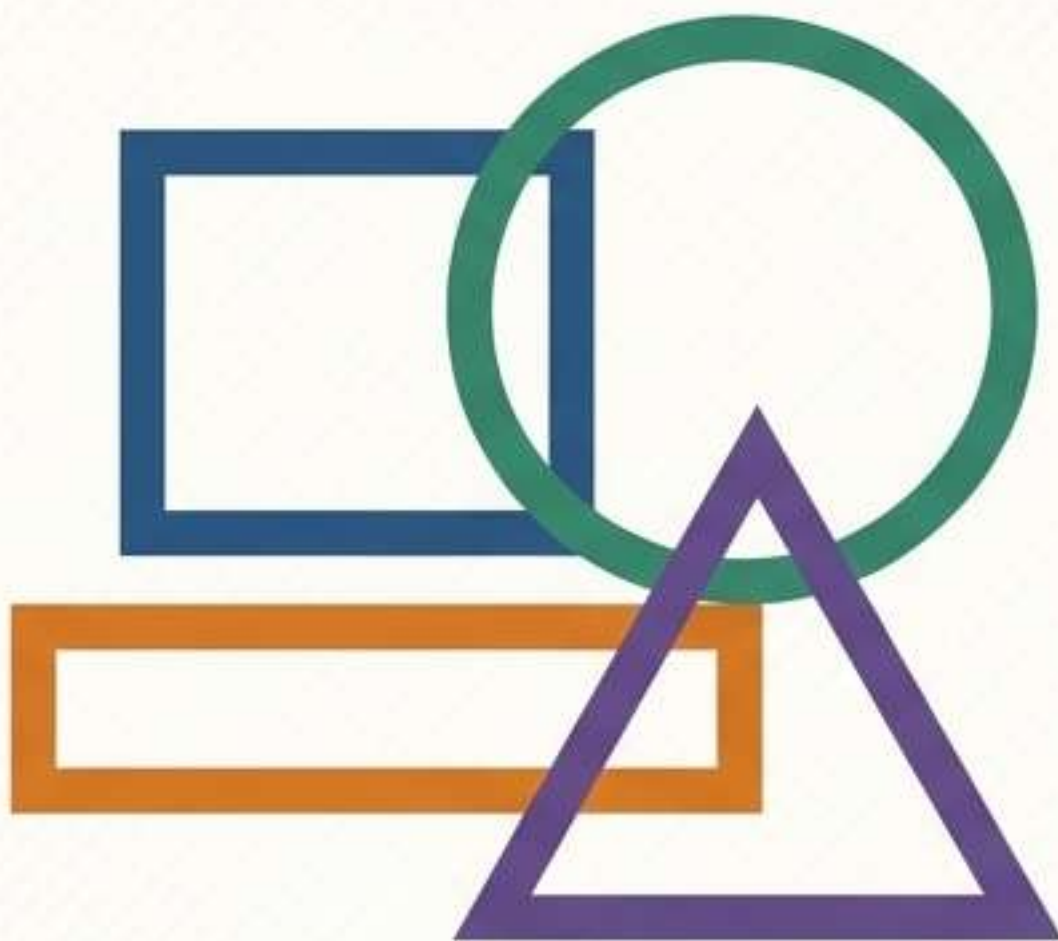
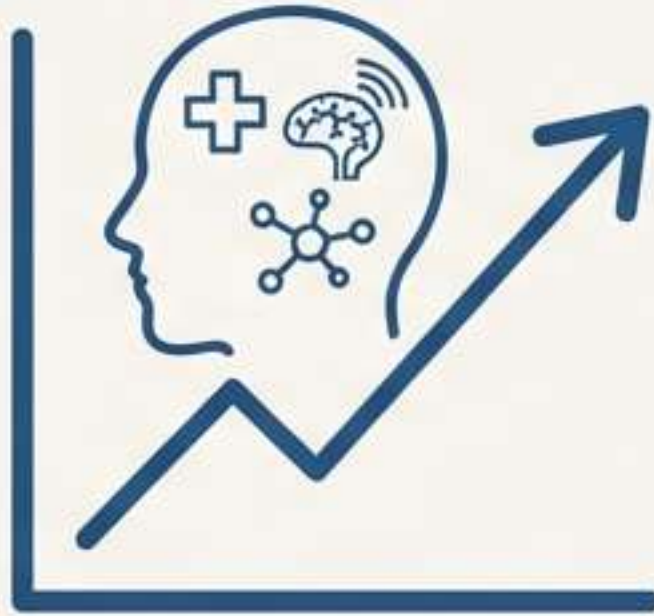


ケアマネジャーの業務を再定義する。

4つの業務類型で、専門性を最大限に活かすためのガイド。



なぜ今、業務の整理が必要なのか？



高まる需要と複雑化する課題

高齢化に伴い、医療ニーズや認知症、複合的な課題を抱える利用者が増加。



担い手の伸び悩み

ケアマネジャーの従事者数は横ばい・減少傾向にあり、合格者数も近年2万人を下回る。



「シャドウワーク」の増大

法定業務以外の幅広い相談・依頼への対応が増加し、業務負担が深刻化。

ケアマネジャーが、本来の専門業務に集中できる環境の整備が急務です。

役割を明確にする「4つの業務類型」



① 法定業務：ケアマネジメントの中核



相談対応:
利用者からの相談に応じる



ケアプラン作成:
居宅サービス計画を作成する



連絡調整:
市町村やサービス事業者等と連携する

利用者に寄り添い、自立した日常生活を支援する、専門性が最も求められる業務。

② 保険外サービス：地域資源との連携



ケアマネジャーが直接行うのではなく、地域の自費サービス、NPO、ボランティア団体等につなぎます。

③ 他機関につなぐべき業務：専門機関への橋渡し



預貯金の引き出し・
財産管理



福祉サービスの
利用手続き

専門性が求められる業務は、市町村、地域包括支援センター、社会福祉協議会等と連携し、適切な機関へつなぎます。

④ 対応困難な業務：地域全体で取り組む課題



徘徊時の搜索



入院中の物品調達



死後事務

一人で抱え込まず、地域ケア会議などで協議し、行政や関係機関とチームで対応します。

業務の仕分けが、ケアマネジメントの質を高める



① 法定業務
専門性を発揮する



② 保険外サービス
地域資源につなぐ



③ 他機関への連携
専門機関へ委ねる



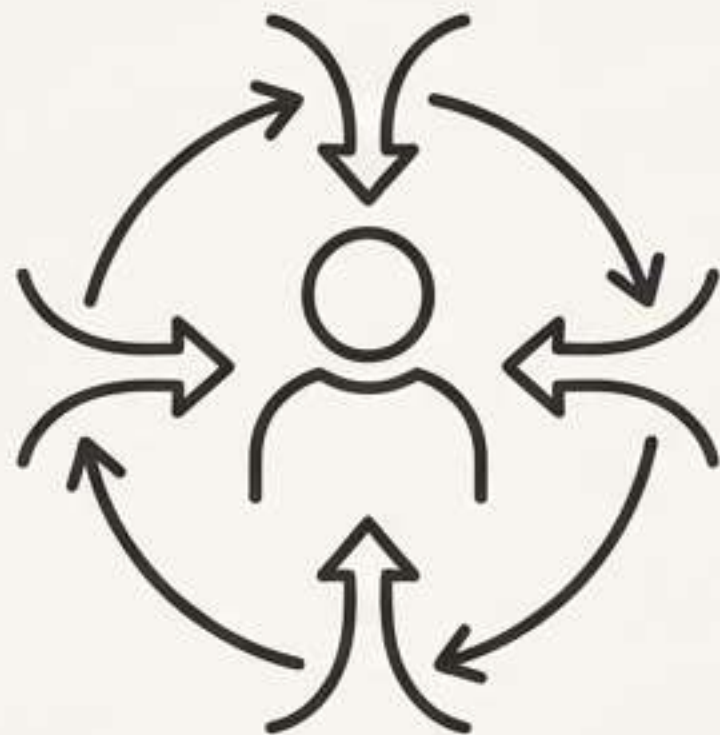
④ 対応困難な業務
チームで協議する

業務の最適化がもたらす、これからのケアマネジメント



ケアマネジャーへ

専門業務に集中でき、
やりがいが増える。



利用者へ

質の高い、切れ目のない
支援が実現する。



地域へ

多様な主体が連携する、
包括的な支援体制が
構築される。



一人ひとりの専門性が、地域を支える力になる。